



所在地／宮城県仙台市  
 学生数／約16400人  
 学部／文、教育、法、経済、理、医、歯、薬、工、農  
 大学院／文学、教育学、法学、経済学、理学、医学系、歯学、薬学、工学、農学、国際文化、情報科学、生命科学、環境科学、医工学  
 ▶THE世界大学ランキング2021／201-250位、同評判ランキング2020／71-80位、同学術分野ランキング2021／[工学]＝75位、同インパクトランキング2020／97位、同アジア版2020／30位、同日本版2020／1位

写真提供：東北大学

## withコロナの国際戦略・取り組み

	国際戦略	コロナ禍での取り組み
教育	国内外から優秀な学生・教員を引きつけ、大変革時代の社会を世界的視野で力強く先導するリーダーを育成 ▶ポイント制でグローバルリーダー認定を行う「東北大学グローバルリーダー育成プログラム」の実施 ▶国際共同大学院プログラムによる国際協働教育の充実 ▶国際学位コース等への留学生の積極的受け入れ など	「Be Globalプロジェクト」で、オンラインの活用を推進 ▶交換留学、短期留学、留学準備支援のオンラインでの実施 ▶対面授業が主流であった国際必修科目のオンライン化 ▶留学生受け入れプログラム(交換留学・短期留学)と入学前予備教育のオンライン展開 ▶留学生オンラインヘルプデスクの開設 など
研究	卓越した学術研究を通して知を創造、新たな学問領域の開拓とイノベーション創出を推進 ▶世界に卓越した強みを有する「材料科学」「スピントロニクス」分野、世界に先駆けて創成すべき「災害科学」「未来型医療」分野で世界トップレベル研究拠点を形成 など	▶ポストコロナ時代のレジリエントな社会構築に向けた研究を学内のファンドで重点的に支援 ▶オンラインセミナーの開催を全学的に支援、奨励し、社会とのつながりを強化 など
産学連携・社会連携	グローバルイノベーションキャンパスや国際ネットワークを舞台に国際産学連携を展開。「社会とともにある大学」として、多様な世界的社会課題の解決に向け先導的役割を果たす ▶ビジョン共創型パートナーシップに基づく、グローバル企業との大型産学連携の加速 ▶世界的社会課題の解決への貢献 など	▶「スタートアップ・ユニバーシティ宣言」。国内大学初のベンチャー創出支援パッケージを創設し、経営者候補人材の確保、ファンドによる資金提供、同窓会組織と連携した人的支援等を実施。新産業の創出を加速させる ▶感染予防対策のeラーニング動画を作成し、ホームページで公開 など
広報	戦略的広報の推進 ▶クオリティーの高いウェブページ、ソーシャルメディア等を活用し、ステークホルダーに応じた適切な情報発信を推進 ▶海外の同窓会との連携、国際シンポジウムの開催・招致 ▶海外拠点・コンソーシアム等を活用した多様な機関等との連携による情報発信体制の強化 など	戦略的広報を継続しつつ ▶オンラインを活用した国際シンポジウム、海外同窓会等イベントの実施 ▶オンラインによる海外高校生に向けた大学説明会 ▶オンラインオープンキャンパスを利用した本学のグローバル教育の国内高校生向け広報 など

## 注目! オンラインを活用した国際教育の新たな形を模索

東北大学グローバルラーニングセンターは、ニューノーマル時代の社会変革を先導する目的で、2020年4月に「Be Globalプロジェクト」を立ち上げた。海外に赴く(=Go Global)ことが難しい時代において、グローバル人材になる(=Be Global)ための、新たな国際教育モデルの構築をめざす。

2020年度前期には、日本人学生と学内外の留学生が協働プロジェクト等に取り組む「国際共修」をオンライン化。後期は時差の小さいオーストラリアやアジアも対象に加え、より多地域の留学生と協働している。また同じく2020年度後期から、オンラインによる留学生の受け入れも開始。これまで留学生に提供していた科目や研修の一部をオンライン化したほか、協定校5大学を対象に新たな受け入れ枠を設け、移動を伴わない国際交流を活性化させている。

### Be Globalプロジェクトの取り組み例

#### 入学前教育

- 総合型選抜等合格者を対象とした入学前海外研修をオンライン化。対象者も拡大。
- 国際学士コースでオンライン入学前教育を提供。

#### アウトバウンド

- 海外トップレベルの協定校と共同開発したオンライン海外短期研修プログラムを実施、拡充。
- 海外協定校にオンラインで交換留学をする制度を整備。

#### インバウンド

- 既存の交換留学プログラムの一部をオンライン化。受け入れ枠を拡充。
- 世界各国でオンラインによる留学説明会を実施。

# 国際戦略のマネジメント強化 “選択と集中”と全学の意識改革



## 東北大学

国際ネットワークの連携方針を「拡大」から「戦略重視」へと切り替えた東北大学。多様なパートナーとの国際協働の深化を加速させている。



国際戦略室 副室長 教授 米澤彰純

よねざわあきよし ●東京大学大学院教育学研究科博士課程中退、東北大学より博士(教育学)取得。東京大学助手、経済協力開発機構コンサルタント、広島大学、大学評価・学位授与機構、東北大学准教授、名古屋大学准教授を経て現職。専門は、教育社会学。高等教育のマクロな国際比較を得意とする。

### 共に成長をめざす 国際協働を重視

本学は、世界で尊敬される「世界三十傑大学」の一員になるべく、国際化に取り組んでいます。これは、世界の人々が尊敬する30大学を挙げたとき、その中に入っている状態をめざすものです。なお、大学ランキングなどの順位を上げること自体は目標ではありません。世界共通の課題解決や指導的人材の育成に取り組む、その結果が世界に認められることを重視しています。

このように目標を捉える背景には、本学の成長戦略が関係しています。本学では、東日本大震災を転機に、教職員や学生が「社会とともにある大学」を強く意識するようになりました。そのため、社会に働きかけて産業を興し、社会全体を豊かにする中で本学も発展

する——共存共栄のエコシステム構築を成長戦略の基本としています。国際戦略でも考え方は同じです。多様なパートナーと共に成長をめざす国際協働の深化を、基本戦略に活動しています。

### 「数を追う」「出島」的国際化からの脱却

パートナーと共に成長をめざすには、活動に実効性が求められます。これまで本学はネットワークの「拡大」を重視し、学術交流協定校数は<sup>\*1</sup>大学間252校、部局間493校に増えていました。しかし、この全てが有効に機能しているわけではありません。そこで、総長直下に置かれた国際戦略室が中心となり、全学視点で交流の戦略的意義や効果を精査し、ネットワークの「質」を高めることにしたのです。パートナーシップを結ぶ基準は、「共に成長が期待できるかどうか」。本学と似た環境でマネジメントや国際戦略のノウハウの共有がしやすい大学、<sup>\*2</sup>国際共同大学院プログラムで共に若手研究者の育成に取り組む大学、<sup>\*3</sup>研究大学強化促進事業でポスドクの派遣やクロスアポイントメントを行っている大学などを中心に、国際協働の深化を図っています。

研究大学・総合大学として国際協働を深化させるには、特定の国際部門が橋渡しをするだけの「出島」的な国際化では限界があります。すなわち、大学の全構成員が主体的に国際化に取り組む意識改革を進め、各部署が「自分たちにとっての国際化とは何か」「その達成に向けてどう行動するのか」のビジョンを共有し、自主的に行動する必要があります。

さらに、コロナ禍のように緊急対応が求められるときには、全学での明確なビジョンの共有も重要です。2020年7月に本学は、教育や研究、社会との共創、大学経営のあらゆる面でのオンライン化を強力に進める「コネクテッドユニバーシティ戦略」を発表しました。リアルとサイバーを融合すれば、これまで以上に世界とダイナミックにつながるはず。この取り組みの先に本学は、コロナ禍で顕在化した社会の分断や格差を越えてポータルレスかつインクルーシブに世界をつなぐ新たな大学像の確立を見据えています。

コロナ禍のような世界的課題に直面し、柔軟かつ戦略的な国際協働の重要性はますます高まっています。これからの歩みを止めることなく、世界と共に成長する国際化を進めていきます。

\*1 2020年12月22日時点  
 \*2 東北大学が進める学位プログラムの一つ。強みを持つ9分野で、部局の枠を越え、海外有力大学と連携した共同教育を行う  
 \*3 文部科学省の支援事業。審査を経て対象となった機関の、研究マネジメント人材の確保、研究環境改革等の取り組みを支援する

取材・文／見山雄介 撮影／御堂義典